

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495400325	事業の開始年月日	平成26年3月1日	
		指定年月日	平成26年3月1日	
法人名	ALSOK介護株式会社			
事業所名	グループホームみんなの家・川崎多摩登戸			
所在地	(〒214-0044) 神奈川県川崎市多摩区登戸302番			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和6年12月3日	評価結果 市町村受理日	令和7年6月12日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の健康増進に特に力を入れています。
健康増進課の指導に基づき、毎日NoA体操を実施しています。
定期的に訪問またはリモートによるインストラクターによる体操を行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年12月17日	評価機関 評価決定日	令和7年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR南武線中野島駅から徒歩15分程度の平坦な住宅地に位置している。すぐ近くにコンビニエンスストアがあり、利用者の買い物に利用している。建物は軽量鉄骨木造2階建ての1階と2階に各1ユニットを配置している。広めのストレッチャーが運べるエレベーターが設置されている。事業所内はバリアフリーで1階の浴室にはリフト浴が設置されている。

【利用者の健康維持への取り組み】
毎朝、法人が取り組んでいる「NoA体操」を実施している。「NoA体操」は、利用者の脳と脚の健康・維持向上を目的として考案された。この脳トレ運動を行うことで、利用者の機能の維持を図っている。3カ月に1度インストラクターから指導と助言があり職員は日々の体操時に活かしている。インストラクターとはリモートで体操を実施している。

【看取り介護への取り組み】
入居契約時に「重度化及び看取りに関する指針」を説明し、看取りに対しての本人の意思や家族の意向を確認している。終末期であるとの医師の診断時に改めて医師と事業所から説明を行い同意書を交わしている。看取りケアの開始には、訪問診療医・看護師、介護支援専門員・介護スタッフの連携のもと利用者の症状を踏まえて看取り介護計画を作成している。看取り介護計画は本人及び家族に説明し同意を得たうえで看取り介護サービスの提供をしている。困難な事例でも本人・家族の希望に添えるように対応している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみんなの家・川崎多摩登戸
ユニット名	1U/2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホームみんなの家・川崎多摩登戸
ユニット名	1U/2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	そのようにしています。	事業所理念「地域と共に明るく笑顔の毎日を」は、開所時に作成したもので事務所に掲示して周知している。管理者は、職員に、業務で迷った時には事業所の理念に立ち返って考えるよう指示している。職員は、笑顔を忘れず、利用者に寄り添ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、交流をしています。	台和町自治会に加入している。町内会からの情報はポスティングで届けられている。管理者着任時はコロナ禍で地域の集まりに出ることがなく、きちんとした挨拶ができていないので今後は町内会の総会などに出席する予定である。夏祭りでは利用者と通りに出て神輿を見学した。近隣の方からみかんのお裾分けがあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表の方を通じ、話し合いの場を作り、理解や支援の方法を地域の方々に向けて活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近はコロナ禍により中止を止む無くしておりますが、以前よりの話し合いにより、そこでの意見をサービス向上に活かしてきております、今後は地域との連携を行っていきます	運営推進会議は2カ月ごとに開催している。メンバーは家族、地域包括センター職員、町内会長、民生委員と定め、開催の1カ月前に案内を出すようにしている。全家族には毎月の連絡時に開催の案内を出している。クリスマス会などの行事と合わせて開催するように心がけている。現状の会議への参加メンバーは家族のみの時やメンバーの参加が全くない時があり、書面開催とし、報告書を家族に送付するだけの時もある。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。委員会メンバーからの率直な意見をもらい運営に活かせるように、メンバーが参加しやすい日程の工夫や開催案内の周知の工夫などを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	川崎多摩区役所と連携をとり協力関係を築くように取り組んでいます。	事故報告は川崎市役所に送付している。利用者の介護保険要介護認定申請代行や、介護保険の手続きに関する相談で区役所を訪問した際などに、助言を受けている。生活支援課とは、担当者が来所した際や区役所を訪問した際などに、対象の利用者の状況に関する情報共有や相談をしている。保健所からは不定期でお知らせのメールがくる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化検討委員会は3カ月ごとに開催されている。メンバーは管理者、マネージャー、ユニットリーダー、職員で構成されている。マニュアルや指針が整備されていて年間計画に沿った研修を実施している。研修はパソコンを利用して身体拘束に関する内容を視聴し学んでいる。緊急やむを得ない身体拘束の事例は生じていない。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を毎月一回開設し、防止に関する徹底に努めております。	高齢者虐待防止の指針とマニュアルを整備している。高齢者虐待防止委員会は法人からの年間計画に沿って開催している。研修も年間計画に沿って行い、開催時間は職員の参加しやすい時間を工夫している。職員は研修を受けて高齢者虐待防止について知識を深めている。研修後は研修レポートを出している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な人に必要なサービスの提供をして行くうえで、関係者に相談し、活用できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのようにしています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	そのようにしております。	家族の意見や要望は、運営推進会議の開催時に聞いている。家族とは電話や報告書送付、来所時の会話で意思疎通をしている。イベントの開催や外出の希望が出ている。年2回の家族会は多くの参加を促すために、クリスマス会などのイベントと同じ日に開催して意見交換をしている。次回は3月を予定している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	そのようにしております。	毎月の全体会議やユニット会議で職員と意見交換をしている。日々の情報は申し送りノートで情報を共有している。職員との個別面談を年2回行い、個々の思いや希望を聞いている。管理者は日常的に職員との会話を重視して話しやすい環境に配慮している。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その様に努めています。	小規模多機能型事業所の併設を予定して建てた広い空間があり、職員の休憩室として利用している。リーダー研修など業務上必要な研修は業務扱いで、受講料・交通費が支給されている。自己啓発のための研修は自己負担であるが資格手当が支給されている。個別面談でスキルアップの希望を聞き職員の意欲を引き出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に取り組んでおります。	法人が指定する年間の研修計画に合わせて、研修を実施している。事業所内部研修では、身体拘束・虐待防止や、感染症などのテーマで研修を実施し、計画的な人材育成を行っている。また、外部研修では、管理者が認知症介護実践リーダー研修を受講した。研修を受講した職員は、研修レポートを作成し提出している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	機会があればそのようにしたいのですが、現在は出来ておりません。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そのようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	そのようにしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その様な暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	そのような関係を築いております。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	そのような支援に努めております。 ホームの電話を利用して、家族や友達との交流を支援しています	友人知人の訪問がある。友人や家族との面会は9時から20時の間なら、いつでも可能で滞在時間の制限もない。家族と自宅に帰ったり墓参りに出かける利用者もいる。家族や友人への電話は職員が取次ぎ、馴染みの関係継続を支援している。以前からの新聞を購読している方や、読書を読んでいる方がいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	そのようにしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのようにしております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	そのようにしています。	入居前に利用者・家族から暮らし方の希望や意向を聞いて入居前のアセスメントに記録して情報を共有している。職員は、散歩や入浴などの利用者がリラックスできる1対1の時間を大切にして会話の中から、思いや意向の把握に努めている。把握した情報は、申し送りノートに記載し、カンファレンスで共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その様に努めています。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアとして現状に即した介護計画を作成しています。	モニタリングは、居室担当者が3か月ごとに行い、毎月のケアカンファレンスで話し合って介護計画の見直しにつなげている。介護計画は、長期目標1年、短期目標6か月で作成しているが、状態により随時見直している。生活記録はタブレットを利用して記入している。職員は紙ベースの介護計画を確認しながら日々の記録をタブレットに入力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	そのようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新聞を取ってる方や、近所庭を見せてもらったりしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	そのようにしております。	ほとんどの利用者が、協力医療機関（内科）をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。薬剤師が、訪問診療時に同席し薬に関するサポートをしている。歯科は、希望者が月2回協力医療機関の訪問診療を受診している。皮膚科や耳鼻咽喉科などの専門医への通院は、原則家族対応で受診している。医療連携の看護師が週1で訪問し、利用者の健康管理をしている。利用者の情報は、職員、医療関係者間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師による週一回の診察及び必要であれば訪問看護師による医療処置も行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	そのようにしております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのように取り組んでおります。	事業所では、入居契約時に「重度化対応及び看取りに関する指針」を説明して、同意を得ている。看取りを行う場合は、医師からの説明後に看取り介護計画を作成して家族に説明し、看取りの同意書を取り交わしたうえで開始している。職員は、家族や医療関係者と連携して終末期の支援をしている。年1回訪問看護師を講師とし看取りに関する研修を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	そのようにしております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と連携をとり協力体制を築いております。	事業所は、年度内に夜間想定訓練も含め、火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施する計画を立てている。また、浸水想定区域に位置していることから、定期的な避難訓練も実施する計画である。BCP（事業継続計画）は法人として、策定済である。BCP検討会議や感染症対策委員会も計画して12月にBCP検討会議と消防訓練を実施予定である。3月に夜間火災想定での避難訓練を予定している。災害時備蓄のリストは作成している。災害時備蓄のリストは作成しており、水や食品の備蓄と合わせてローリングストックもしている。	年間の運営計画に水防避難訓練、消防訓練、BCP検討委員会、感染症対策委員会などの予定がありますが、本年度の実施が遅れています。災害はいつ起こるかわかりません。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えておくことが重要です。計画に合わせてバランス良く訓練を実施されることを期待します。また、地震に備えて家具の転倒防止を望みます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そのように取り組んでおります。	個人情報に関する書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。利用契約書の中に「秘密および個人情報の取り扱い」の項目があり、個人情報について適切な取り扱いに努めると明記されている。職員は接遇に関する研修を受け、プライバシーの確保や言葉使いに気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者個々の希望、自己決定を尊重し、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのようにしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、そのようにしております。月4回の特別食を実施しています	毎日の食事は食材業者から冷凍で届いている。ご飯は事業所で炊き、汁物は、味噌汁サーバーで作ったものを提供している。クリスマス・年越しそば・おせち料理など季節ごとのイベント食を月3~4回提供している。利用者は、食器洗いなどできることを手伝っている。食事レクリエーションで、おやつのパンケーキなどを作り、食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	そのように支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	そのようにしております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	そのような支援に努めております。	生活記録をタブレットで記入管理している。その中で排泄チェックを記録して、把握した排泄パターンに基づく定時誘導や利用者の様子や仕草を見て随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠優先を基本に、個人の状態に合わせて支援している。看取り介護となった利用者が回復し、支援の結果おむつ使用からリハビリパンツ使用に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	そのように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日は個々に設定させていただいておりますが、ご本人の意思をそんちょうし、適宜対応しています。	入浴は、原則週2回、午前中から1日3名が入浴できるよう支援している。お湯は一人ずつ入れ替えている。体調の悪い利用者は、シャワー浴や足浴、清拭などで対応している。1階の浴室にはリフト浴が整備されている。利用者は、季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を楽しみながら職員と会話をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その様に対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力医療機関と連携・共有し、詳細に随時相談のうえ指示を仰ぎ、変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのように努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、出来ておりませんが、以前は可能な限りそのように入り組んでおりました。今後状況により可能な限り希望をかなえられるよう尽力して参りたいと思います。	天気の良い日には、事業所の周りを散歩したり、近くのコンビニエンスストアに買い物に出かけている。通りに出て夏祭りの神輿を見学したり、ベランダから花火観覧を楽しんでいる。家族対応で、お墓参り、外食、自宅などに出かける利用者がいる。利用者の外出は生活記録に記入して外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、そのようにしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのようにしております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのように努めております。	居間兼食堂には、大きな窓があり、採光もよく明るい。エアコン・加湿器・換気扇・窓開けなどで空調の管理をしている。季節感を感じるために壁に手作りの飾りを貼っている。訪問時にはクリスマスツリーの大きな貼り絵が飾ってあった。清掃は、遅番の職員が掃除機やモップかけを担当し、台所などは、使用した職員が担当している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	そのようにしております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	そのようにしております。	居室には、介護用ベッド、エアコン、照明器具、防災カーテン、洗面台、クローゼットなどを備え付けている。利用者は、机、テレビ、時計、家族の写真を持ち込んで思い思いの部屋づくりをしている。清掃は、職員が週1回のリネン交換時に行っている。居室担当者がモニタリング、家族への連絡、衣替えなどを行っている。転倒防止のため夜間帯のみセンサーを利用している部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのように取り組んでおります。		

目標達成計画

事業所名 みんなの家川崎多摩登戸

作成日 令和7年6月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		年間の運営計画に水防避難訓練、消防訓練、BCP検討委員会、感染症対策委員会などの予定がありますが、本年度の実施が遅れています。災害はいつ起こるかわかりません。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えておくことが重要です。計画に合わせてバランス良く訓練を実施されることを期待します。また、地域に備えて家具の転倒防止を望みます。	訓練研修などをバランスよく組むようにしていく	年間スケジュールを活用してバランスよく組んでいく、家具の転倒防止に突っ張り棒を配置していく	一年間
2		運営推進会議は2カ月ごとに開催している。メンバーは家族、地域包括センター職員、町内会長、民生委員と定め、開催の1カ月前に案内を出すようにしている。全家族には毎月の連絡時に開催の案内を出している。クリスマス会などの行事と合わせて開催するように心がけている。現状の会議への参加メンバーは家族のみの時やメンバーの参加が全くない時があり、蒸気開催とし、報告書を家族に送付するだけの時もある。	地域の人参加を増やしていく	町内会のイベントなどに参加して、コミュニケーションをはかり信頼関係を築く、その際声掛けをして参加をお願いしていく	一年間
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。